

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北広島市 共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022&kan=true&JigyosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型の事業所の利点を活かし、地域の小学校6年生との年に2階の交流、中学1年生のフィールドワーク、中学3年生のインターシップ、幼稚園との年に2階の交流が年間の定例行事として定着している。
・昨年の4月に小樽高等支援学校の卒業生を一般就労で受け入れており、法人内の就労支援の先駆けとなっている。又、昨年の7月には全員で学校訪問したり、2年生の生徒さんが、施設訪問に来てくれるなど、その後の交流も深めている。
・今年度は特に「ご家族様とともに支える」と言う事をテーマとし、誕生会にご招待したり、外出行事に同行をお誘いしたり、運営推進会議でミニ勉強会を実施している。
・災害対策の一環として、スタッフ全員が市の消防署で行われている普通救命の講習を受講できるよう、スタッフの教育を進めている。
・春から秋にかけて玄関前の花畑や、裏の駐車場の一角にある畑での野菜の栽培や収穫など、入居者様と一緒に作業を行い収穫した作物を食卓で味わう事が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅から車で5分ほどの住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。幹線道路に面し、小学校や公園、バス停が近く利便性が高い。建物内に同一法人のデイサービスとケアプランセンターが併設している。地域との交流に力を入れ、デイサービスなどと合同でバーベキューを開き、地域住民や市役所の方が合計20名ほど参加している。また、幼稚園児や小学生と交流したり、中学生の体験学習も受け入れている。運営推進会議は、市や地域包括支援センター、多数の地域関係者、複数の家族の参加があり、毎回テーマを設定して話し合いやミニ勉強会を行い、充実したものとなっている。市との関係では、市のグループホーム連絡協議会に参加して情報交換したり、市民後見人や認知症支え合い員などの研修参加者の職場実習の受け入れにも協力している。職員同士のコミュニケーションが良好で、情報を共有して質の高いケアサービスを提供しており、利用者の笑顔も多い。介護計画については、定期的に職員の意見を集約して更新が行われ、職員が気づいた変化などを生活日誌やケアプランの評価欄に随時記載し、更新の際に活かしている。外出支援の面では、日々の散歩や買い物、定期通院の他、年間行事が充実し、外食する機会も設けながら花見やドライブ、紅葉狩りなど少し遠方にまで出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fいぶきアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の小中学校、幼稚園との交流も定着しており、町内会のお祭りなどの催しにもお誘いを受け入居者様と一緒に参加させて頂いている。	6項目からなる事業所独自の理念があり、その中に「地域社会の一員としての生活を再編」という文言があり、地域密着型の意義を踏まえた理念として確立している。理念を共用部分に掲示し、名札の裏に携帯して理解、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回程度パン食の日を設け、地域のパン屋さんからパンを購入したり、入居者様が作った雑巾を小学校に寄贈する等交流を図っている。	同一建物のデイサービスなどと合同で9月にバーベキューを開き、地域住民や市役所の方が合計20名ほど参加している。幼稚園に園児の歌を見に行ったり、小学生が事業所に遊びに来ている。中学生の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度から運営推進会議でミニ勉強会を実施しており、その中で認知症についてのテーマも取り入れ、理解を深めて頂ける様発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域の方やご家族様のご意見を伺い、外出行事の行先などの参考にさせて頂いたり、町内会の行事などの情報提供を頂いている。	会議は2か月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、老人クラブ会長、利用者家族などの参加を得て、防災や外部評価、事故防止、行事など話し合ったり、ミニ勉強会を行っている。議事録は全家族に送付していない。	会議の議事録を全家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、バーベキュー行事などに市の担当の方を始め、地域の高齢者支援センターの方々とも連携を取りながら協力関係を築いている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加がある。年4回の市のグループホーム連絡協議会にも参加して情報交換している。市民後見人や認知症支え合い員などの研修参加者の職場実習の受け入れに協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ロッカールームと事務所に身体拘束の具体例を記した掲示をしており、毎月ミーティングの際におこなっている勉強会で年に1回以上は研修を行い、スタッフに周知徹底しているが、玄関はDSとも共有している事に加え、幹線道路に面している事から、命に係わる大きな事故を防止するため施錠している。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的行為を示したマニュアルを用意し、事務室に掲示したり、勉強会などで確認している。玄関ホールへの出入りは自由だが、デイサービスと共通の玄関は安全のため日中も施錠している。外出の希望があれば職員と一緒に同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に毎年数名のスタッフが参加し、全スタッフが受講できるよう業務の調整を行っているほか、GH内や法人内の勉強会でも不適切なケアを含む虐待の防止については毎年必ず研修を行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束や虐待防止の勉強会と同時に研修を行っている。又、今年度は市で行った市民後見人の養成講座受講者の施設実習も受け入れており、より身近に感じる事が出来ている。又、ご家族様からも質問や相談を受けることもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等に則り、十分な説明をし、ご理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度のアンケート調査を行うほか、面会時や電話でのご家族様のご意見などを運営に活かせるよう記録に残している。	毎月1～2回、家族の来訪があり、その際に意見を聞き、意見を「ご意見ノート」で共有している。年に1回アンケートを実施し、結果を職員の教育や利用者との関わり方に活かしている。また、毎月ホーム便りを作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談で、管理者と1対1で意見交換できる機会を設けているほか、毎月のミーティングや日々の業務の中で、気が付いたことはいつでも管理者に提案できる体制を作っている。	毎月ミーティングとケース会議を行い、活発に意見交換している。管理者と職員の個別面談も年2回実施されている。職員は、ミーティングや環境衛生、防災、物品・食材発注、行事企画などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの家庭環境を踏まえ、希望に応じた勤務時間や回数に配慮したシフトを組んでおり、働きやすい環境を作る努力をしている。又、年に2回スタッフの評価を行い、昇格や昇給の機会を増やし、スタッフがやりがいを感じられる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修をはじめとする外部の研修は受講料や交通費が法人から支給され、又、業務に支障がないよう勤務の調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きたひろサービスネットを通じた管理者の定例会議や市内のGH間のスタッフの相互訪問、交流会、研修などの機会が多く、またスタッフの参加意欲も高い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	短時間でもコミュニケーションの回数を多く持ち、ご本人が心を開き、安心して暮らせるための要望を聞き出せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお気持ちを傾聴し受容すべく、コミュニケーションの回数を多く持ち、信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階から、ご本人やご家族様のお話に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂くこともあり、選択肢を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂く様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の共同生活を営む上で、ご本人のできる事を探し、又、できる事を増やすお手伝いをさせて頂いているというスタンスで入居者様との関係を構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に今年度は、ケアプランの中にご家族様との連携を盛り込んだり、外出行事やGH内で行う行事などにもお誘いし、共に支える事をテーマに、取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いのあったご近所の方や、職場の同僚だった方の面会などもある。	元近所の方や職場の同僚だった方の来訪がある。隣のデイサービスに知人が通う方もおり、気軽に会うことができる。家族の支援のもと、外食やお墓参り、温泉などに出かけている方がいる。また、利用者3～5人で喫茶店に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時、自力摂取が進まない入居者様に、隣の方が「美味しいよ食べてごらん」等と声掛けして下さる場面もある。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了時にも、今後も気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けをし、いつでも相談や支援ができるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の言葉で意思表示できない方もおり、どんな時にどんな表情を見せてくれるかなどをスタッフ間で検討し、それをご本人の意向ととらえている。	半分程の方が言葉で思いや意向を表現でき、難しい方の場合も表情や過去の経験、家族の情報をもとに把握している。フェイスシートやアセスメントシートなどを定期的に更新している。	フェイスシートの生活歴の情報が少ないので、家族からの情報などをもとに充実を期待したい。年1回更新するセンター方式のシートの一部について、変化のあった事項を追記することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、今までの暮らしぶりをお聴きしたり、ご本人との会話の中でまたは、ご本人が発する何気ない一言から、生活習慣などを把握できるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、気付いたことをケアプランの評価欄に自由に記入する事や、ミーティング、カンファレンス等の意見交換で、現状をスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にケアプランの評価欄に気付いたことを自由に書き込みするようスタッフ間で周知しており、又、ご家族様の面会時の何気ない一言を記録するファイルを作成することで、それぞれの意見の反映に努めている。	3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に介護計画を更新している。日々の生活日誌にプランの番号を記載しながらサービスの実施状況を記録し、変化などを生活日誌やケアプランの評価欄に随時記載し、更新の際に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌の記録の他、連絡ノートやケアプランの評価欄、支援経過などに、日々の様子の変化などについて記録し、カンファレンス等で意見交換し、モニタリングやアセスメントを行いケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているDSやリハビリの専門職、主治医とも連携を密にし、その時々ニーズに合ったサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や小中学校、又、町内会のなどへの参加も含め、入居者様の楽しみや活動の場を広げられるよう工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の主治医のもとでの定期受診の他、かかりつけ医への受診などは、スタッフによる受診介助を適宜行い、ご本人やご家族様の意向に沿う支援を行っている。	母体法人の医院に毎月定期受診で通っており、事業所で送迎している。他科などその他の受診も概ね事業所で対応している。個人毎に受診内容を記録しており、母体医院の分は受診資料の提供も受けている。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の病院の看護師や、訪問看護師、又、併設するDSの看護師とも必要に応じて、連携を取り、水分量や食事の摂取量、普段の様子との違いなどの報告を行い、指示や助言をもらったり、適切な受診や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や、看護添書により、入退院時の情報交換を行うほか、入居者様が入院した際はスタッフがこまめに面会に行き、その都度様子を確認し、看護職からも情報をもらえる体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に重要事項説明書をもとに重度化や終末期に向けた方針については説明しているが、入居者様の高齢化に伴い、ご家族様の方からも質問を受けることもあり、当事業所でする事は、機会があるたびに説明させて頂いている。	利用開始時に重要事項説明書の中にある「重度化に関する対応指針」を説明し、同意を得ている。過去に看取りの事例はないが、家族の希望があり、諸条件が合えば看取りを行う方針としている。看取りに関する研修も順次行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については勉強会などで都度確認しており、電話のそばに、いつでも救急隊に情報提供できるよう、傷病情報のファイルを設置している。又、各スタッフが普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回町内会の方にもご参加頂き日中想定、夜間想定での避難訓練を実施しており、緊急連絡網にも地域住民の方の連絡先を記載している。又、2階から階段を使って歩行不可能な方を救助する訓練も行っている。	年2回、消防や地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。一方、救急救命訓練の受講は職員の半数程度にとどまり、災害時に必要な備蓄品は不足する物品の準備を進めている。	救急救命訓練を全職員が3年に1回程度受講できるよう、計画的な訓練の実施や研修への派遣を期待したい。また、備蓄品については、缶詰やポリタンク、カセットコンロなど不足を認識しているものについて準備を予定しているので、整備を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、敬う気持ちで大切に声掛けをしている。	接遇マナーについて年1回勉強会を行っている。利用者の呼びかけは「さん」付けとしている。申し送りは利用者から離れた場所で行い、記録類も事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるようわかり易い声掛けをしている。たとえば水分摂取はご本人の好みの物を提供できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしとは何かをスタッフ間で話し合い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容でカットしてもらえるよう、ご本人の希望を伺っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの適正に合わせ、食材確認、準備、後片付けまで一緒に取り組んでいる。、誕生会にはその方の好みのメニューを一緒に考え、外食行事などで、楽しみにつながる食事になるよう支援している。	法人の献立を基に畑の野菜を取り入れたり、誕生日や行事の時は、海鮮丼やすき焼きなど利用者の好きな献立にしている。外出行事でレストランに出かけたり、寿司や蕎麦などを楽しんでいる。楽しく会話をしながら、職員も同じ食事を一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外での水分摂取を1000mlに目標を設定し、支援しているが自主的に摂取できない方には、好みの物やゼリーで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕必ずその方に合った口腔ケアと義歯の洗浄を行っている。又、訪問歯科の他、ご本人の要望に応じて、市内の歯科を受診する支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンをスタッフ全員が把握できるよう努めている。又、尿意便意のサインを見逃さないようスタッフ間で情報を共有し、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表や生活記録に排泄状況を記入し、羞恥心に配慮し「散歩しましょう」などと声かけをしてトイレ誘導している。立位が取れない場合は夜間にベッド上でオムツ等を交換することもあるが、昼夜共にできるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	室内での運動促進、乳酸菌飲料や水分の十分な摂取を心がけており、腹圧のかかりにくい方には腹部マッサージも取り入れている。必要に応じて医師に相談し、下剤や整腸剤でコントロールすることもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前は入浴は午後に行っていたが、最近は入居者様の体調や、希望に合わせて午前中から行う事も増えてきた。又、冬至のゆず湯や、好みのシャンプーを使用し入浴を楽しんでいただいている。	毎日午前から午後まで入浴が可能で、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。入浴剤を使用したり、歌をうたいながら楽しく入浴できるように工夫している。希望に応じて同性介助でも対応している。家族と温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の様子を観察し、希望により、居室やリビングのソファで休息を提案している。ただし、昼夜逆転にならないような配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルにより、スタッフ全員が服薬している薬の副作用を把握し、又、薬の効果が得られているかの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフの研修参加により、入居者様の楽しみや生きがいを持った生活について、全スタッフが考え、意識を高めることができており、今一度、一人一人の生活歴や趣味嗜好を見つめ直しその支援に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応じて外出できるよう努めている。入居者様のお姉さまの入所されている施設に、他のご家族様の都合やご意向を伺い、面接に伺う事が出来た。	日頃は、車椅子の方も一緒に散歩や季節の花を見に出かけている。畑仕事やゴミ出しを手伝う利用者もいる。5月から11月までは外出行事を計画して、花見や小樽方面へのドライブ、羊が丘やサケのふる里館などに出かけている。冬季も受診に出かけて外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様については、ご家族様とも相談の上自己管理して頂き、外出時や、訪問販売時にはスタッフが付き添う形で支払いやおつりの受け取りに間違いがないかを確認し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用についてはご本人からは言い出しにくい事を踏まえ、スタッフから声掛けし促している。又、手紙や年賀状の返事についてもご本人の希望に沿った支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に配慮しつつも、リビングでは入居者様がくつろいで過ごしやすい家具の配置を考え、季節ごとの花や、行事の際の写真を飾り居心地の良い空間づくりに努めている。	室内の床は、畳風の滑りにくいフローリングで、居間や食堂も明るく清潔感のある造りになっている。廊下や居間の壁に掲示コーナーを設けて、小学生や幼稚園児からの手紙や、外出行事の写真を工夫して掲示している。加湿器や濡れタオルなどを使用しながら湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは気の合う入居者様同士が座れるよう、ソファではゆったりと新聞を読んだり、昼寝が出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具を持参して頂き、ご家族様の写真や思い出の詰まったものを居室に置き、居心地の良い空間づくりに配慮している。	居室の入り口には木製の表札があり、自室が分かりやすくなっている。仏壇や椅子、アルバムや縫いぐるみなどを持ってきており、その人らしい居室になっている。窓際に花や小物を置いたり、壁には家族の写真や運動会のメダルなどが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札をかけご自分の居室がわかり易いよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北広島市 共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果市町村受理日	平成27年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyoSyocd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F いぶき」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2Fうらら アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の小中学校、幼稚園との交流も定着しており、町内会のお祭りなどの催しにもお誘いを受け入居者様と一緒に参加させて頂いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回程度パン食の日を設け、地域のパン屋さんからパンを購入したり、入居者様が作った雑巾を小学校に寄贈する等交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度から運営推進会議でミニ勉強会を実施しており、その中で認知症についてのテーマも取り入れの理解を深めて頂ける様発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域の方やご家族様のご意見を伺い、外出行事の行先などの参考にさせて頂いたり、町内会の行事などの情報提供を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、バーベキュー行事などに市の担当の方を始め、地域の高齢者支援センターの方々とも連携を取りながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ロッカールームと事務所に身体拘束の具体例を記した掲示をしており、毎月ミーティングの際におこなっている勉強会で年に1回以上は研修を行い、スタッフに周知徹底しているが、玄関はDSとも共有している事に加え、幹線道路に面している事から施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に毎年数名のスタッフが参加し、全スタッフが受講できるよう業務の調整を行っているほか、GH内や法人内の勉強会でも不適切なケアを含む虐待の防止については毎年必ず研修を行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束や虐待防止の勉強会と同時に研修を行っている。又、今年度は市で行った市民後見人の養成講座受講者の施設実習も受け入れており、より身近に感じる事が出来ている。又、ご家族様からも質問や相談を受けることもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等に則り、十分な説明をし、ご理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度のアンケート調査を行うほか、面会時や電話でのご家族様のご意見などを運営に活かせるよう記録に残している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談で、管理者と1対1で意見交換できる機会を設けているほか、毎月のミーティングや日々の業務の中で、気が付いたことはいつでも管理者に提案できる体制を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの家庭環境を踏まえ、希望に応じた勤務時間や回数に配慮したシフトを組んでおり、働きやすい環境を作る努力をしている。又、年に2回スタッフの評価を行い、昇格や昇給の機会を増やし、スタッフがやりがいを感じられる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修をはじめとする外部の研修は受講料や交通費が法人から支給され、又、業務に支障がないよう勤務の調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	きたひろサービスネットを通じた管理者の定例会議や市内のGH間のスタッフの相互訪問、交流会、研修などの機会が多く、またスタッフの参加意欲も高い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	短時間でもコミュニケーションの回数を多く持ち、ご本人が心を開き、安心して暮らせるための要望を聞き出せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお気持ちを傾聴し受容すべく、コミュニケーションの回数を多く持ち、信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階から、ご本人やご家族様のお話に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂くこともあり、選択肢を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂く様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の共同生活と営む上で、ご本人のできる事を探し、又、できる事を増やすお手伝いをさせて頂いているというスタンスで入居者様との関係を構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に今年度は、ケアプランの中にご家族様との連携を盛り込んだり、外出行事やGH内で行う行事などにもお誘いし、共に支える事をテーマに、取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いのあったご近所の方や、職場の同僚だった方の面会などもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来したり、誕生会にはその方のために、唄の披露をし合ったり、外出の際には車いすを押して頂いたりとお互いの存在を意識し合える関係が出来ている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後もご自宅を訪問する機会を持ち、又、偶然、外出先であっても困りごとがないかお声掛けをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の言葉で意思表示できない方もおり、どんな時にどんな表情を見せてくれるかなどをスタッフ間で検討し、それをご本人の意向ととらえている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、今までの暮らしぶりをお聴きしたり、ご本人との会話の中でまたは、ご本人が発する何気ない一言から、生活習慣などを把握できるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、気付いたことをケアプランの評価欄に自由に記入する事や、ミーティング、カンファレンス等の意見交換で、現状をスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にケアプランの評価欄に気付いたことを自由に書き込みするようスタッフ間で周知しており、又、ご家族様の面会時の何気ない一言を記録するファイルを作成することで、それぞれの意見の反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌の記録の他、連絡ノートやケアプランの評価欄、支援経過などに、日々の様子の変化などについて記録し、カンファレンス等で意見交換し、モニタリングやアセスメントを行いケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているDSやリハビリの専門職、主治医とも連携を密にし、その時々ニーズに合ったサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や小中学校、又、町内会などの参加も含め、入居者様の楽しみや活動の場を広げられるよう工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の主治医の素での定期受診の他、かかりつけ医への受診などは、スタッフによる受診介助を適宜行い、ご本人やご家族様の意向に沿う支援を行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の病院の看護師や、訪問看護師、又、併設するDSの看護師とも必要に応じて、連携を取り、水分量や食事の摂取量などの報告を行い、指示や助言をもらったり、適切な受診や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や、看護添書により、入退院時の情報交換を行うほか、入居者様が入院した際はスタッフがこまめに面会に行き、その都度様子を確認し、看護職からも情報をもらえる体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に重要事項説明書をもとに重度化や終末期に向けた方針については説明しているが、入居者様の高齢化に伴い、ご家族様の方からも質問を受けることもあり、当事業所で行える事は、機会があるたびに説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については勉強会などで都度確認しており、電話のそばに、いつでも救急隊に情報提供できるよう、傷病情報のファイルを設置している。又、各スタッフが普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回町内会の方にもご参加頂き日中想定、夜間想定避難訓練を実施しており、緊急連絡網にも地域住民の方の連絡先を記載している。又、2階から階段を使って歩行不可能な方を救助する訓練も行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりが歩んできた人生や生活環境を尊重した声掛けや、言葉遣い、会話のペースなどにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る洋服の選択や、好みの飲み物をご本人が選択できるようオープンクエッション、クローズドクエッション等その方に合った働きかけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たとえば朝食の時間に起きて頂くのではなく、起床に合わせて食事を温め直して提供するなど、一人一人の体調や生活のリズムに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の好みや組み合わせもその方らしいおしゃれとして尊重している。又、ご家族様に協力頂いて行きつけの美容室に通って頂くこともある。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ペースや体調を考慮しながら食事の盛り付けや下膳後の食器洗い等入居者様とスタッフが談笑しながら共同作業が出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やミキサー食などその方の食べる能力に応じた形態で食事を提供し、十分な栄養が摂れるよう配慮している。飲み物での水分摂取が難しい方にはゼリーなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けで口腔ケアを行っているが、その方のその日の気分に合わせて落ち着いた環境で口腔ケアが出来るよう、場所を変えて声掛けを試みることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりが困難な方も日中は二人介助でトイレでの排泄を行っている。又、その方の行動パターンなどから尿意や便意を察し、トイレ誘導の声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の食事に乳酸菌飲料を提供するほか、十分な水分摂取や、室内でのウォーキング等運動量にも配慮し、時間を掛けて、ゆっくりと排便できる環境を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特別な行事等がない限り曜日などに関係なく、毎日入浴の準備、声掛けをし、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴できるようにしている。そのため、入居者様の気分によっては毎日入浴される方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力などに応じて、昼寝の声掛けをおこなったり、リビングで傾眠されている時は、休息の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々のバイタルサインや食事量、排泄の状況をもとに服薬による副作用を起こさないよう医師の指示に従って服薬を調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食器拭き、縫物等の家事を行って頂くことで充実感や達成感を味わって頂ける様支援している。又、外出行事での気分転換や外食で好みのメニューを選ぶ楽しみも味わって頂いている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の馴染みの美容室に行けるようご家族様にご協力頂いている。又、買い物や喫茶店など、個人の希望に応じて外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じて、お金を所持して頂いている方もいる。又、GHで管理する場合はご本人の希望に合わせて、いつでも自由にお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話を所持している方もおり、又、希望に合わせて、いつでもGHの電話を使用できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーやひな飾り、花の時期はスタッフが自宅の庭で咲いた花を飾るなど季節感を味わって頂ける様配慮している。又、居室の温度や湿度についても、スタッフが訪室時に確認をし、適宜調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでゆっくり新聞をご覧いただいたり、入居者様同士、あるいはスタッフも交えて談笑できる空間づくりを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッド等の家具はご本人が使い慣れたものをご持参頂いており、中にはお仏壇を置いている方や、生活習慣によって、布団の上げ下げを行っている方もおり、家庭に近い空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの能力に応じ、ベッドに手すりをつけ、起き上がりの自立を促したり、入居者様の動線に障害物がないか家具の配置に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 共栄の郷

作成日：平成 27年 3月 26日

市町村受理日：平成 27年 4月 1日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の議事録を入居者様のご家族様宛送付していない。	H27年度より、議事録について、ご家族様宛送付し、一人でも多くのご家族様にご参加頂ける様、運営推進会議に興味を持って頂く。	毎月の広報誌などと共に、運営推進会議の議事録を同封し、併せて次回以降のご参加を呼びかける。	1カ月
2	23	入居者様やご家族様との会話の中で、生活歴について様々な情報を頂いてはいるが、フェイスシートの生活欄への記載が少ない。	生活歴を充実させたマイヒストリーを作成する。	既に得ている情報の他、入居者様との会話の中や、ご家族様の面会時に過去の生活歴について話題に上ったものを、ご家族様のご意見としてまとめ、「マイヒストリー」を完成させる。	1年間
3	23	アセスメント表の記載について、前回のアセスメントから変化した部分の記載が、わかりにくい。	アセスメント表の記載で前回と比較して変化があった事項については朱書きする等、一目瞭然でわかるような記載の仕方を工夫する。	次回のアセスメントから、変化のあった事項を朱書きし、変化が一目でわかるような記載の仕方に統一する。	1年間
4	35	緊急時の備蓄品の整備が完了していない。 全スタッフの普通救命講習の受講が完了していない。	法人内のGHと足並みをそろえて備蓄品の整備に努める。また、H27年度中に全スタッフが普通救命講習を受講できるようスケジュールを調整する。	法人内のGH間で協議しながら、備蓄品の整備に向けて早期に完了できるよう進めて行く。 北広島消防署主催の普通救命講習にH27年度中に全スタッフが参加し、又、適時その更新が出来るよう、管理していく。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。